



護持会会長 鬼木信次郎

# 広報誌五十号に誇り

には大いなる喜びと安心を運ぶものだと思います。立正安国論の結びに、『速かに実成の一善に帰せよ、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん』と示されているように、お題目の信仰により、安心して、落ち着いて暮らしていけることが大切です。

このお寺からのおたよりは、檀信徒の皆様の大きい「たより」とされているところと思います。そのことを編集委員の皆様はエネルギーとして、しっかりと続けていかれることと確信いたします。他の人のために役立つ「菩薩行」今風にはボランティアは佛様の教えのままの「おこない」です。私も微力ながらお手伝いさせていたきたいと存じます。一層のご尽力とご発展をお祈り申し上げます。

お寺に保管してある『圓頓寺たより』を拝見しますと、昭和五十年、当時の副住職英知上人が編集・発行された『圓頓寺のいぶき』【8ページ参照】がスタートです。内容は、住職恵海上人の『刊行のことば』、『七百遠忌を目前にして』、『お寺の一年の歩み』、『副住職荒行入行』、『指標（宗祖のおことば）』などなどで、現在の基本形がハッキリとみえます。その後しばらく中断して、青年会により昭和五十七年六月に圓頓寺たより第二号、昭和五十八年一月に第三号とガリ版ずり（手書き）で発行され【19ページ参照】、再スタートが切られており、二十四年間、一月号・七月号が途切れることなく発行されています。第四号から

毎度ありがとうございます  
米・肥料・農薬・たばこ  
(全商品配達致します)

## (有)あそしな米穀店

代表取締役 阿蘇品 和彦  
☎ (0968) 43-2526  
無料電話 0120-23-2526  
山鹿市大宮町641-2

## 熊本日新聞

(有)熊日山鹿南販売センター  
山鹿市大宮町439  
本総代 阿蘇品 宗 旭

社会福祉法人 大道福祉会

## 若葉保育園

理事長 阿蘇品 賢 治

は現在の盛文社の印刷となっています。

創刊号から四十九号まで、日蓮宗、圓頓寺、住職、寺庭、護持会、婦人会、信行会、団参、編集委員会、青年会などの活動・行事が記載されており、貴重な記録ともなっています。

聞くところによりますと、たよりの当初は、当時の副住職英知上人と新聞記者だった幸平和さん、青年会の谷良太郎さん三名で編集され、途中から副住職と谷さんの二人になり、平成九年から編集委員会で編集・校正され、この五十号も編集委員会で、昨年から数回の話し合いを経て発行されることになっています。

私は、平成十四年から護持会会長を仰せつかっておりますが、近年全国的に



平成15年帰山式の鬼木会長

寺離れが強いつき、我が檀那寺にそれが無いのは、御前様恵海上人、住職英知上人、副住職英人上人の信望が厚いのと、檀信徒皆様の信仰のたまものと、筆頭総代として心より感謝申し上げますとともに、広報誌が五十号まで発行されたことに誇りを感じております。最後にになりましたが、編集委員の皆様には健康に留意されながら、住職上人・副住職上人の手助けを借り、圓頓寺たより百号に向かって邁進されることを祈念しています。

## 建てて良かった檀信徒会館

顧問 田原 久



光陰矢のごとしとは、良く言われるもので、「圓頓寺たより」も年二回発行で、創刊以来早や二十五歳の歳月が流れ、記念すべき五十号の発刊をみましたことをお喜び申し上げます。

これも偏に檀信徒の方々のご支援、ご協力と、特に広報担当の谷良太郎様のご尽力の賜と深く敬意を表する次第でございます。谷良太郎様は勤務の傍ら、圓頓

寺たよりの編集と大変ご苦労をなされたことと存じます。皆様方を代表して厚く御礼を申し上げます。

顧みますれば、トイレの不便さと、厨房や会館の狭さに端を発し、会館建設の話が持ち上がり、建設の話がなかなか纏まらず、お上人が、私が建てますと申されて、一時は騒然となりました。今思えばそのとき、無理して建てて良かったと皆さん方は思っておられるのではないのでしょうか。

雨降って地固まる、の例えどおりだと思ふ。今では会館もトイレも広くなって、何をすることも便利になり、皆様方のお参りも多くなつたように思います。

以前はトイレの混雑は、映画館のような繁盛ぶり、会館でお膳に座るにもお膳の数が少なく、座る場所もなく何時までも待たされていました。



平成元年11月壇信徒会館落慶法要

今では会館もトイレも広くなり、待たされることもなくなり、ありがたいことだと思っています。 私たちの身体は、生身の身体でございますので、今

は健康のようでも、何時お迎えが来るか分かりません。健康なうちになるべくお参りして、先祖の方々から、

心の中に輝いている山歩き

総代 山下としこ



早く迎えられますように、心掛けて余生を送りたいと思っております。 合掌

などしかり。逃げ腰になる人もいるが、朝日連峰の「マタギ」の生活など、私は興味があります。

木の根に腰をおろし、風を感じ、ゆれる草を見ている。緑の甘い匂いがする。木漏れ日が揺れ、全身がくすぐられる。そんな中に身を置いてみると、自ら嬉しさが全身を駆けめぐる。

それに貴重な出会いがある。野うさぎの瞳の涼しさ、あるいはとことこ歩み行く山鳥の羽根の美しさ、このような一瞬の記憶の中の輝き、どう話したらいいのだ

歴史と文化の街 日本一の装飾古墳と八千代座

山鹿温泉



清流荘 鹿門亭

〒861-0501 熊本県山鹿市下町1768  
電話 山鹿 (0968) 43-2101(代)  
ファックス (0968) 43-5153

ろうか。自分の中で非常に大切にしているこれらの思い出を言葉にしたら、とたんに消えてしまいそうな気

輝いた青年会

総代 阿蘇品宗道



「圓頓寺たより」五十号発刊誠におめでとうございませす。昭和五十年創刊されて年二回、二十五年に亘る号史は近代圓頓寺の沿革史であります。それと併せて英知上人が日蓮宗の教えを広く宣流布される、大きな証でもあります。

がする。大事に心の中の宝としておこう。

南無妙法蓮華經

「圓頓寺たより」をひもとくと、過去の出来事がひとつひとつ鮮明に蘇って参ります。私にとっては、青年会の設立とその活動が強く印象に残り、今日の信心の基礎を作ったように思います。五十二年頃わずかに四・五名で発足した会は、最盛期には二十数名の会員を擁し、色々なお寺の行事に参加しました。また、青年として若い力と考えを發揮しました。

特に妙教寺と合同の林間学校、矢谷溪谷でのキャンプやソフトボール等々、当



昭和52年8月青年会主催第一回林間学校

時の写真が懐かしく青年会活動の情熱が彷彿と思ひ出されます。そして、当時の

気心が知れたメンバーは、青年会から齢を重ね壮年となりましたが、圓頓寺興隆

二十五年という年月の流れは、色々な面で大きな変化を遂げていますが、これからは、英知上人、英人上人を中心に檀信徒の信仰の証として、この大偉業が未来永劫に続くことを確信します。そして、忘れてならないことは、初期の頃より編



昭和56年11月1日、日蓮大聖人700遠忌  
天童音楽大法要で青年会の先頭を歩く阿蘇品総代

の熱意は不変であり、立場が変わっても、その結縁は強く結ばれています。



集に携わられた谷さんの大変なご苦労に、心から敬意を表します。また、発行経費の大半をまかかっていただく各スポンサーの方々のご供養も誠にありがたいもので、心から感謝いたします。これからは県下に名だたる「圓頓寺たより」が紙号を重ね、一〇〇号の大記念号の時私自身も執筆できるような信仰に勤め、自重自戒、健康を保ちながら、生きる目標として「圓頓寺たより」の発展を祈る所存です。



平成元年8月林間学校で写経中



平成元年7月青年会水行に挑戦

和食亭  
**栄太郎**  
TEL0968-43-8080

山鹿市山鹿郵便局となり



マルカメ醤油・味噌  
**灯笼じょしじょ**

山鹿市中1000-2  
☎44-3131

お寺との縁えん

総代 井上勝介



僕とお寺の縁は、「仕事」と「心」のふたつの結びつきがある。

仕事の面では昭和四十年、帰省して父の仕事を手伝うようになってから、早四十年が過ぎた。その間、四十年からの旧檀信徒会館、旧庫裡の改築、本堂の屋根改修に携わることが出来た。先代の「恵海上人」に、『暑かですなあ』『大変ですなあ』としきりに声をかけていただいたことが、つい昨日のような気がします。

その後、六十三年より現在の檀信徒会館の建設、そして昨年は庫裡も手掛けさせてもらい、親子二代に亘って事業を担うことが出来た。幸せな自分がここにいます。今後続く本堂の改修、位牌堂の建設等その礎を創つていくのも我々に課せられた



護持会総会で会計報告する井上総代

命題であるかも知れない。「心の縁」は昭和五十二年、「英知上人」の大荒行第再行成満式からだと思う。五里霧中でお手伝いしたこととを覚えていいる。その後青年会に加入させていただき、多くの方々を知り合うことが出来た。「英知上人」が当寺の後継者として入山され、檀家の結末、青年会の育成等に尽力なさっていたことは耳にしていたが、全くそのとおりだった。六十一年頃から母と寒行に参加するようになり、母を気遣いながら夜道をまわ

ったことが、今でも目に浮かぶ。またその頃より諸々の行事に参加するようになり、何かにつけお題目を唱えることの意義が、少しずつ分かってきたような気がする。

平成十一年より護持会会計の要職を拝命し、多くの方々に助けてもらった自分がある。その後総代の一員に推挙され、活動の幅も広まり、これまで二度の「身延山団参」にも参加することができ、少しずつお題目の意義、また仏様の懐の深さが気になりつつあるこの頃である。

祖母、父、自分と続くお勤めのお題目を守り続いていけることを切に祈り、これを次世代に伝えることも僕達であると思うとき、身の引き締まる気がします。  
南無妙法蓮華經

年代	沿革	の妹君
<p>一六二四年 (嘉永元)</p> <p>一七四〇年 (元文五)</p> <p>一七八九年 (寛政年間)</p> <p>一八三五年 (天保六)</p> <p>一八四九年 (嘉永二)</p> <p>一八六七年 (慶応三)</p> <p>一八八一年 (明治十四)</p> <p>一八八七年 (明治二十)</p>	<p>☆久本院(本光院) 日授上人が、現在地に当寺を開基創建。</p> <p>☆第十二世恵光院日曜上人が、本堂内陣厨子内にある御本尊、三宝尊、四菩薩、四天王などの諸尊像の開眼供養。</p> <p>☆第十六世善了院日勤上人により、本堂及び庫裡など新築・改修成る。同上人を中興の祖と称する。</p> <p>☆山鹿灯笼祭(盂蘭盆会)の夜出火。全山炎上し、寺宝・由緒書・過去帳・古書跡・古文書など一切を消失。</p> <p>☆第二十五世本浩院日正上人の時、本堂・庫裡など新築再建され大法要厳修。</p> <p>☆廃仏毀釈の運動起こり、山鹿神社鳥居横の仁王像廃毀さる。第二十六世日精上人により、当寺門前に仁王像を移転安置する。</p> <p>☆第二十七世妙光院日宣上人の時、日蓮大聖人第六百遠忌大法要を営む。</p> <p>☆同上人の時、村雲尼公(初代日栄尼公・瑞龍院門跡) 大導師として来山され大法要を営む。【初代村雲尼公は昭憲皇太后</p>	<p>一八九一年 (明治二十四)</p> <p>一九二八年 (昭和三)</p> <p>一九二九年 (昭和四)</p> <p>一九三三年 (昭和八)</p> <p>一九四七年 (昭和二十二)</p> <p>一九四八年 (昭和二十三)</p> <p>一九四九年 (昭和二十四)</p> <p>一九五一年 (昭和二十六)</p> <p>一九六〇年 (昭和三十五)</p> <p>一九七〇年</p> <p>☆第二十八世常光院日勝上人の時、山門・鐘樓堂・書院を新築し、本堂・庫裡を大改修、山門・鐘樓は現在に至っている。</p> <p>☆第三十一世一導院日常上人(荒木恵水)、正中山大荒行初行満願。</p> <p>☆同上人の時、庫裡に棟続きに祈禱場及び書院を新築。身延山第八十一世杉田日布上人御親教大法要。</p> <p>☆同じく同上人の時、日蓮大聖人第六百五十遠忌、並びに圓頓寺開創三百年祭の天童音楽大法要を営み、村雲尼公(第二代・日浄尼公) 大導師として御来山。山鹿温泉龍の湯御入浴(憲兵隊警備)。</p> <p>☆第三十二世一妙院日淳上人(荒木恵海)、当山の法灯継承。</p> <p>☆同上人、正中山大荒行第初行成満。</p> <p>☆本堂屋根修復</p> <p>☆日蓮宗開宗七百年記念のため、梵鐘再鑄大法要厳修。</p> <p>☆加藤清正公御入滅三百五十年忌に本堂屋根修復し、本妙寺貫主池上僧正導師にて、天童音楽大法要を奉修。</p> <p>☆日蓮大聖人御生誕七百五十年、並びに当</p>

(昭和四十五)	山開創三百五十年記念のため、本堂・鐘楼堂・山門など総屋根替え、檀信徒会館・庫裡新築完成。鎮西身延山本仏寺貫主佐野前光僧正導師のもと、落慶天童音楽大法要厳修。	(平成元)	☆檀信徒会館落慶式。
一九七四年 (昭和四十九)	☆福岡県妙教寺住職花田英忠上人の次男、英知上人を当寺後継者に迎え、入山大法会を厳修。	一九九〇年 (平成二)	☆荒木英人君「得度式」「度牒式」
一九七六年 (昭和五十)	☆副住職順信院日薫(英知)上人、大荒行第再行入行。	一九九一年 (平成三)	☆「山鹿温泉大黒天祭」始まる。
一九七七年 (昭和五十二)	☆副住職順信院日薫(英知)上人、大荒行第再行成満。出行大法要を奉修。	一九九三年 (平成五)	☆荒木恵子さん「九識靈断法」修得。
一九八一年 (昭和五十六)	☆日蓮大聖人第六百遠忌の報恩奉行を奉修 本堂内陣その他大改修を行い、天童音楽大法要厳修。	一九九四年 (平成十四)	☆奉仕当番制を始める。
一九八四年 一九八五年 (昭和六十)	☆護持会発足。初代会長：吉田勇 ☆身延山大本堂落慶全国俳句大会、山下とし子さん入賞。	二〇〇二年 (平成十五)	☆立教開宗七五〇年法要、慶讃事業(檀信徒会館、浄行堂、水行堂、大宝塔、山門前整備、境内墓地改装整備、合祀納骨位牌堂建立を計画、他)
一九八八年 (昭和六十三)	☆副住職順信院日薫(英知)上人、大荒行第三行入行。	二〇〇三年 (平成十六)	☆副住職順境院日攝(英人)上人、大荒行第初行入行。
一九八九年 (昭和六十四)	☆「法華経一字一石宝塔」建立。 ☆檀信徒会館竣工。 ☆副住職順信院日薫(英知)上人、大荒行第三行成満帰山奉告式。	二〇〇五年 二〇〇六年 (平成十八)	☆新庫裡竣工 ☆副住職順境院日攝(英人)上人、大荒行第再行入行(予定)。



# 圓頓寺たより

第2号  
57.6.1

## 荒行僧による 鬼子母神大祭 盛大宴に終わる

当山中行事、鬼子母神大祭が  
さる三月二八日、盛大、厳肅に奉  
修されました。

### 一 涙ぐむ方々も

この日は、早朝より晴天にめぐ  
まれ、午前十時三十分より、副住  
取上人と本年慶荒修行僧二名が、  
境内で所文(誦経)のあと水行式  
が行なわれ、檀信徒の唱題の中で  
修行僧の声が山内にひびき、その  
水しぶきは陽光にはえ、合掌する

### ● 指 標

## 日蓮大聖人の教え

四念金言殿御返事

苦とは苦と悟り、楽とは楽と  
いふが、苦楽共に思い、合せて  
南無妙法蓮華経とうち唄え  
居させ給へ。此れあに自受法  
楽にあらずや、強々強盛の信  
力を致し給へ。

### 大 意

人生は苦楽相半ばしているもので

### 一 荒行とは

この荒行僧の方々は、昨年十一  
月一日より、さる二月十日まで奇  
百日向、水行と誦経等に精進し、  
一日二食の粥をすすり、わずか三  
時間の睡眠という、実に人体生命  
の限界にいとち苦行に堪えなけれ  
ば到底できない至難の修行であり

ある。苦に直面したからとてよく  
くよしても始まらないし、楽がき  
たからとて有頂天になつてしまつ  
ては、いつまた、極楽極楽まっま哀  
情多しという幻滅に陥らないとも  
限らない。そこで、苦がきたら素  
直に苦なりと受取つてこれを甘受  
し、楽がきたら冷静にこれを受取  
つて楽を味よい、苦楽共に是れ人  
生の当然の姿として、いつち変ら  
ぬ心持ちでもつて、南無妙法蓮

ます。水行は、深夜十一時を最後  
に、前後七回を繰り返し、そのた  
び肌は背をたててひびかれて血し  
ぶきするのであります。

### 一 水行に感動

このような気迫のもとでの水行  
式が眼の前に行なわれ、心より  
感動しました。

その後十一時より、本堂鬼子母  
神御堂前にて、荒行僧の念力によ  
つて心身の魔障を払い、幸運をむ  
かえるために、諸願成就、子安講  
運命長久、家内安全、交通安全、  
厄払い除回退散、各御先祖供養  
等の大秘法祈禱祭がいとなまれま  
した。

華経々とお題目を唱えて下さい。  
これが、いわゆる「自受法楽」の  
心です。  
自ら禅定の祈りの心をもち、私生  
活の中に信仰をもつことこそ、清  
く高い聖なる心境であります。死  
後の成仏だけを祈るのではなく、  
今の世において仏様に近づき、ど  
しても、いよいよ強く盛んな信仰を  
励みたいものです。

### 圓頓寺年向行事

一月十三日 初講大法要  
日蓮大聖人初命日忌、御先祖早  
始給供養

三月二八日 鬼子母神大祭  
荒行僧による 諸願成就(家内安  
全、交通安全、先祖供養、除厄  
退散)祈禱、子安講運命長久祈  
禱

七月二九日 お盆会、土用丑  
祈禱法要  
御先祖血盆おせがき湯洗供養  
土用丑の日、ほろく各祈禱

### 一 靈 験 あ ら た か

本日御開帳の当山にお祭りの鬼  
子母神は、古来より、お題目を唱  
える人には驚くほど靈験あらたか  
く、子供の発育を守るはもちろん  
、広くは、悪霊、悪鬼、邪悪、邪  
念を払い、人々をして一切の病災  
難から救い、一切の諸願満足を約  
束され、御守護をいただいて現在  
にいたっております。

### 一 青年会が がんばる

本大祭で特に目をひいたことは、  
青年会の活動であります。大祭  
奉仕はもちろんのこと、厄除けせ  
んざいバザー会を開催されたこと  
であります。このバザー会は、毎  
年夏休みに青少年育成をはかるた

十月十三日 お盆式大法要  
日蓮大聖人御入滅報恩供養、御  
先祖報恩供養

十二月八日 三聖荒行神大祭  
古いお札、お守りおたぎ上げ式  
御先祖年末給供養、交通安全、  
家内安全祈禱

(月) 例 行 事 ( )  
毎月二八日 唱題修行会  
お題目の修行とお経の練習を行  
なす

めに林向学校を開設してあり、そ  
の資金を捻出するため行なわれ、  
参加会員二〇名の意気込みに対し  
て、参詣者の方々の深い御理解を  
いただき、予定よりも多くのぜん  
ざいができたことは、誠にありがた  
いことでありました。

すこやかな成長を  
この日は日蓮日と重なり、東北  
の本宗の信徒のみならず、子供の  
すこやかな成長を願う他宗の方々  
の祈願参詣も絶えませんでした。

# 圓頓寺

第3号  
58.1.1

## 春の初の御悦び木に花の咲くがごとし とし山に草の生い出づるがごとし と我も人も悦び入って候ふ

明けましておめでとうございませ  
す。



晩年の日蓮聖人（波木井の御影）

（日蓮聖人御言葉）

総代・婦人会・青年会・檀信徒  
関係御一同様には、旧年中は格別  
の御高配を賜わり有難く厚く御礼  
を申し上げます。本年も何卒宜し  
く御願ひ申し上げますと共に、御  
一同様の家運隆昌を御祈り申し上  
げます。

① さて、光陰矢の如しと申します  
か、千載一遇の宗祖聖人才七百還  
忌すすまで過ぎ、才七百年の新  
春を迎えました。宗祖聖人も顕著  
の通り新年を御悦びなさっていま

す。やはり正月は、除夜の鐘から  
初日の出、門松・風鈴・雑煮、こ  
ま、羽子板、初詣や専、万華すか  
すがしく今年こそはと希望に尤ち  
ま榮しそがびとこいひでございま

ところが、元日・二日・三日す  
ぎるとやうふだんと変わりなく、  
やはり世の中がそちかろくなつた  
のぞいしょうか。歌の文句ではあり  
ませんが、世の中右も左も真暗闇  
ではございせんか。といつたお  
んばいでありまして、年中新聞紙  
上やテレビにぎやかしめいる多  
くの事件、よくもまあ次々に起き  
るものかとおきれるばかり。元日  
の今年こそはの誓いはなつた  
のぞいしょうか。

もちょうし心安らかに楽しく暮す  
ことは出来ないものでしょうか  
。とにかくよい事が少なく誠に暗  
い事が多い世相です。  
私たちが兼て諦論して、います法  
華経才五巻才十四章の安樂行品に

「此の世の中において安らかな  
毎日がつぎ、あの世に行つてか  
らも何の苦しみもない」と説かれ  
ています。この一際こそ、真に榮  
しみ、心安らかに過す法悦の心境  
を表現しているといえるでしょう  
。たとえ鹿もさわれども、迫鹿  
にあつても、其の根をこたく勤  
する様であつてはならない、とん  
な聖人・仙人であつてもふりかか  
る災難から逃げるわけにはいかな  
いのです。逃げるのではなく、其の  
災難に負けないで打勝つてしまわ  
なければなりません。  
宗祖日蓮聖人は、文房と酒うち  
のみながら南無妙法蓮華経と唱え  
た。

### 初詣法要 御案内

正月十三日 午前十時

当山では例年のごとく、宗祖日  
蓮大聖人才七百二回還忌初命日初  
詣法要を奉修いたします。

この法要は、古くから初詣と呼  
ばれ、正月の初命日に講をおこし  
て、宗祖大聖人の御入滅せしのび  
報恩のお祈りをささげる日であ  
り、そして、私たちが宗祖にまっ  
くして法華経のおしえを固く守り  
お題目をひらきめぐりてゆくことを誓  
うてあります。

一、日蓮大聖人報恩供養、ならび  
に御先祖・水子年始給供養を行  
ないますので御参詣賜かります  
ように御案内申し上げます。  
※ 参詣御一同様には例年の如く

よ。そうしてささいなればどんな災  
難迫鹿をも打負すことができて、  
のりきることができるのであり、  
そして苦しみにおそわれたら、其  
の苦しみからも望むべし、また榮  
しみがあつたならば、それに  
うつらぬがごとく、苦しき  
につけ、榮しみにつけ、ただ南無  
妙法蓮華経と唱えなさい、と教え  
てあります。（四條金吾殿御返事）  
即ち、此の南無妙法蓮華経は、  
個人個人が即身成佛であり、した  
がつて世の中は即身光土となり安  
樂な世となるのぞいませす。  
宗祖聖人は、「正直に方便を捨  
て唯法華経を信じ、南無妙法蓮華  
経と唱へる人は、其人所往の兜帝  
ます。」

◎ 報恩生活の六修行  
（おこない）  
一、布施  
二、心静かに人と和し、迷える  
人の光とならう  
三、智慧  
四、ものごとを正しく  
考える  
五、喜こんで、み仏の救えを聞  
き、豊かな魂をささすこと



- ◎ 一、持戒： さまりをよく守る
- ◎ 二、持戒： 五戒の約束とならう。
- ◎ 三、忍辱： がまん強くやりと  
げる
- ◎ 四、智慧： 苦しみをわきま、世のため  
の幸に道を行こう。
- ◎ 五、布施： 帯に努力をする
- ◎ 六、心静かに人と和し、迷える  
人の光とならう
- ◎ 七、智慧： 一つも気持ち悪  
くちつける
- ◎ 八、喜こんで、み仏の救えを聞  
き、豊かな魂をささすこと